

西海ブロック水産業情報

NO. 76 (平成24年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>記載なし</p>	<p>【筑前海】 フトモズク養殖:順調に成育中 【豊前海】 ・カキ養殖については、一部の漁場(豊前海中南部)ではクロダイの食害影響により生産量は減少したものの、主漁場である北九州空港周辺漁場については、成長は良好でへい死も比較的少なく順調であったため、海区全体の生産量としては平年を上回る見込み。 ・ノリ養殖は、昨年11月に発生した出水の影響を受け、生産量は昨年の1/3程度になる見込み。</p>	<p>●玄海 【種苗生産】 ・カサゴ:低水温の影響で成長は平年に比べやや遅れたが、5月上・中旬に中間育成用15万尾(45mmサイズ)配布予定。 ・アカウニ:放流用約110万個(8～12mmサイズ)、養殖用約10万個(3～5、8～12mmサイズ)配布中。 ●有明 【研究の動向】 【水産資源関係】 ・タイラギ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質、貝毒分析(カキ)) 【水産増養殖関係】 ・放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査 ・養殖マガキの付着密度比較試験およびカゴ飼育比較試験 ・沖合域におけるモガイ殻 散布耕耘試験の追跡調査 ・サルボウの浮遊幼生等調査 【その他】 ・有明水産振興センターのホームページに漁海況情報として、ノリ養殖情報や海況関連情報を公開中。 【水産業の動向】 【水産資源関係】 ・タイラギ潜水器漁業は12月18日に解禁となり、太良沖で操業されたが、1月以降は多い日で1日12～13隻が操業した。貝柱漁獲量はタイラギ自体が例年に比べ小さいこともあり、1日1隻あたり5kg前後と少なく、3月末までの漁獲量は3.3トであった。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・水温は、1月は平年よりやや高め、2～3月は平年より低めで変動した。 ・比重は、1～3月は平年より低めで変動した。 【水産増養殖関係】 ・サルボウ 平成23年7月中旬以降、貧酸素と低塩分が原因と思われる死が確認され、さらに同年10月以降もたららした死が12月まで継続した。このようなことから24年度の漁獲量は、昨年並みの2,000トンと推測している。 ・マガキ養殖 昨年度より水温が低めに推移したこと、餌となる植物プランクトンの量が少なかったことなどから、秋口の大量死は発生しなかった。しかしながら、フジツボ、ホトギスガイ等の大量付着により生育が抑制されたため、生産量は39トンに留まった。 ・ノリ養殖 冷凍網期は、12月20日から開始され、冷凍戻りも良く低水温ながら順調に成長していたが、中・西・南部海域で12月30日～1月16日にアステリオネラ赤潮、1月23日～3月8日にスケルトナマ、タランシラ赤潮が発生し、さらに珪藻赤潮が全域で2月22日～継続中(3月末現在)にユーカンピア赤潮が発生した。発生した地区を中心に色落ちが確認され、大きな被害となった。そのような中、冷凍網期の6回目入札(3月21日)までの結果は、生産枚数14.4億枚、生産金額155.9億円となった。</p>	<p>○標識放流 ・ヒラメ(全長10cm、40千尾、有明海) ・オニオコゼ(全長7cm、17千尾、有明海) ○放流魚追跡調査 ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、オニオコゼ他について追跡調査を実施 ○有明海漁業振興技術開発事業 【メイタガレイ】12月から採卵および種苗生産試験を開始し、2月中旬に15,000尾(全長30mm)取上げた。 ○養殖魚類の育種技術開発研究事業 【ホシガレイ】1月から橋湾で水揚げされた天然雌親魚から採卵を行い、仔稚魚飼育を実施中(仔魚期にメチルテストステロン投与試験)。 【トラフグ】高成長、早熟等の優良雄親魚精子を用いて、人工授精を実施して、稚魚を飼育中。</p>	<p>・クルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の発生は確認されなかった。 ・2月に低水温が原因と考えられるシマアジの異常死が確認された。昨年も同時期に低水温障害が発生した。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・2/9～17に鹿児島湾南部の山川湾でシュードシヤトネラベルキュローサの赤潮が発生 最高細胞数 9,175cells/ml 漁業被害 プリ1年魚・2年魚20,050尾、カンパチ1年魚・2年魚11,400尾がへい死 ・3/14に、奄美大島瀬戸内町久慈湾で、ギムノディニウム カテナータムによる赤潮が発生 最高細胞数 228cells/ml (4/3に終息を確認) ・3月中旬頃から、甌島沿岸、薩摩半島西岸、南岸、熊毛沿岸、大隅半島東岸で粘質状浮遊物が発生。タランシラ属プランクトンが産生する粘液物質が原因であるとみられる。 ・モズガニ種苗生産:2月13～16日C1稚ガニ326千尾を生産した。</p>	<p>・23年8月に採苗し、同10月に宮崎市青島漁港内の水試筏に沖出していたイワガキ稚ガキのうち約700個(平均殻高4.1mm)を、24年2月に延岡市熊野江湾の(財)宮崎県水産振興協会の筏に移設、垂下し、水深の違いによる成長、生残への影響試験を実施している。</p>	<p>1月から3月の赤潮発生状況は、以下の1件であり、漁業被害があった。 Karenia mikimotoi による赤潮(豊後水道入津湾、1/19～2/2)が1件</p>	<p>記載なし</p>